

畑ワサビ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	べ と 病	白 さ び 病	墨 入 病	茎 腐 病	苗 立 枯 死 症 (リ ゾク トニ ア菌)	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ナ ト ビ ハ ム シ	ワ サ サ ル ビ ゾ ル ウ リ ム イ シ ロ
モンカットFL40 (日本農薬 製)	7		30	2						◎				
			*a		☆					◎				
			*b		☆						◎			
日産モンカットFL40	7		30	2				◎						
アミスター20FL	11		7	2			◎							
ランマンFL	21		7	2			◎							
ロブラール水	2		*c	1				◎						
			*d	3			◎							
アリエッティ水*1	P7		21	3		◎								
ダイアジノン粒5	1B		75	2								ワ		◎
アドマイヤーFL	4A	劇	7	3							◎			
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		3	3							◎		◎	
ブリロソソ粒オメガ	28		21	1								◎		◎

\*1:畑わさび(根茎)での登録

\*a:播種時～育苗期前半 \*b:植替時 \*c:定植時 \*d:定植後(但し収穫30日前まで)

ワ:ワサビクダアザミウマ

☆:セル成型育苗トレイ、ペーパーポットまたは育苗箱で育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

畑  
ワ  
サ  
ビ

## 畑ワサビ (野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	育苗期	・発病株はただちに抜き取る。	
墨入病	定植前	1. 苗は無病株より株分けする。切口に黒い輪紋のないものを選ぶ。 2. 実生苗を利用する。	感染母茎からの苗伝染が最も多い。また、害虫などの食害痕が菌の侵入口となる。
	定植時および定植後	・次の薬剤を処理する。 ロブラール水和剤 定植時: 1000倍で20時間苗浸漬 定植後: 500倍液を3L/m <sup>2</sup> 灌注	
白さび病	植付前	・無病苗を植付ける。	若い葉ほど侵されやすい。5~6月および9~10月に発生が多い。
	生育期	1. 発病葉や花梗は早めに処分する。 2. 次の薬剤のいずれかを初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ランマンフロアブル 2000倍	
べと病	植付前	・無病苗を植付ける。	若い葉ほど侵されやすい。5~6月および9~10月に発生が多い。
	生育期	1. 発病した葉や花梗は早めに処分する。 2. 次の薬剤のいずれかを初期に散布する。 ドイツボルドーA(水)* 500~1000倍 Zボルドー(水)* 500倍	
軟腐病	植付前	1. 無病苗を使用する。特に割口に変色のないものを選ぶ。 2. 実生苗を利用する。 3. 地温の上昇を防ぐ。	*野菜類での登録。薬害回避のため、試し掛けする。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを発生初期に散布する。 コサイド3000(DF)* 2000倍 ジーファイン水和剤* 1000倍 ドイツボルドーA(水)* 500~1000倍	
萎縮病	育苗期	1. 種子は無病株から採取する。 2. 苗床に病株を持ち込まない。 3. アブラムシ類を防除する。 4. 発病株は抜き取る。	タバコモザイクウイルス(TMV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)およびカブモザイクウイルス(TuMV)の3種のウイルスによっておこる。 TMVは種子、種茎、汁液などで、CMV、TuMVは種茎、アブラムシ類によって伝染する。
	植付前	1. 苗は健全な実生苗、健全株から株分けした苗、又はメリクロン苗を用いる。 2. アブラムシ類を防除する。 3. 発病株は抜き取る。	

## 畑ワサビ (野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アトマイヤーフロアブル 4000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 オレート液剤* 100倍 粘着くん液剤* 100倍	*野菜類での登録
カブラハバチ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 幼虫は見つけ次第捕殺する。	
コナガ ・ アオムシ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 次のいずれかの薬剤を1000～2000倍で散布する。 エスマルクDF* ゼンターリ顆粒水和剤* フローバックDF*	
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 次の薬剤を散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向がある。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *野菜類での登録
ナトビハ ムシ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 幼虫は見つけ次第捕殺する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍	
その他の病害虫		灰色かび病、うどんこ病、キスジノミハムシ、ヘリジロカラスノメイガ(シママムシ)、ナガメ、ヒメナガメ	